



あらかわ一義
市政だより

そくさいかいね

=平成27年・第3回定例会=



発行者 「礎」荒川一義

平成27年10月発行 No.44

E-mail:k-arakawa@nanaonet.jp

市長提案理由説明

▼平成27年・第3回定例会は、平成27年9月7日～10月2日迄の26日間の会期で開催されました。▼地方創生を推進するための「七尾版総合戦略」については、本年10月下旬の策定を目指し、庁内での会議を開催するなど、現在、鋭意作業を進めているとし、9月1日には、各界から推薦いただいた委員で構成された推進委員会を開催したと報告しました。「雇用を創出する」、「人口流出に歯止めをかける」、「子育てをしやすい環境をつくる」、「安全・安心な暮らしを守る」といった観点から策定した素案などを報告し、各委員から意見をいただき、今後はパブリックコメントなども行いながら、総合戦略の策定を進めて行くとなりました。

▼国の交付金を活用して発行したプレミアム付きの商品券については、地元での消費喚起や生活支援に寄与するものであり、出来るだけ早く利用していただく事を期待しているところだとしました。

▼8月初旬に七尾市・中能登町で開催された石川県民体育大会については、天候にも恵まれ、和倉温泉運動公園テニスコート、七尾フラワパークのマレット・パークゴルフ場など、新たに整備した施設を多くの参加者にご利用いただいたことは嬉しく、また、当市の選手団が多くの競技で健闘し、昨年を上回る成績を上げた事を称えたいと慰労の言葉を表しました。

▼交流人口の拡大による地域活性化の取り組みについては、能越自動車道の開通や、北陸新幹線金沢開業などの交流基盤の充実を追い風にして、観光誘客のほか、スポーツ合宿や大会、教育旅行の誘致など、様々な分野で引き続き交流人口の拡大に努めたいと、その決意を表しました。

▼一般会計補正予算では、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3億8,177万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ325億4,174万2千円としました。

▼今定例会は、代表質問4名、一般質問の「一問一答方式」5名、「一括方式」4名、計13名が質問に立ち活発な議論が交わされました。

▼今議会の概ねについてご報告致します。

■平成27年度9月補正予算の概要(一般会計)

(1)一般会計の補正予算額 3億8,177万円の増額

①一般会計9月補正予算の推移

年 度	9月補正予算額	9月補正後予算額	対前年度比
平成27年度	3億8,177万円	325億4,174万2千円	+2.1%
平成26年度	2億6,439万6千円	318億8,597万7千円	△3.9%
平成25年度	2億9,147万2千円	331億9,597万2千円	+4.9%

②財源内訳

国庫支出金	9,693万1千円	県支出金	3,213万3千円
分担金及び負担金	31万2千円	地方交付税、特例交付金	1億6,813万4千円
寄付金	110万円	諸収入	105万7千円
繰越金	7,550万3千円	市債	660万円



(2)一般会計の主要事業

(千円)

事業名	事業内容	事業費	担当課
コミュニティセンター整備事業	コミュニティセンター整備に係る施設改修費及び環境整備 ＜対象施設＞田鶴浜地区(サンビーム日和ヶ丘) 中島地区(中島市民センター) 能登島地区(能登島総合健康センター) 事業内容…施設改修、戸籍端末移設、ネットワーク環境整備	101,000	市民男女協働課
鉄道対策費	JR 七尾線・のと鉄道の利用促進等のための駐車場整備 対象土地：能登わかば農業協同組合本店跡地(神明町) 対象面積：1,649.02 ㎡(498.83 坪) 対象内容：土地購入及び舗装工事	27,690	企画財政課
私立保育所運営費	私立保育所等の特別保育事業実績見込みによる補助金増額 在宅育児家庭通園保育モデル事業 367 万円 (在宅育児家庭への通園に準じた保育サービス利用支援)	4,275	子育て支援課
市単土地改良事業費	農業生産基盤の安定を図るための農業施設等の整備費用 事業箇所：中島町奥吉田地内、中島町笠師地内 事業内容：農業用パイプライン修繕、水門破損個所調査	1,250	農林課
観光振興費	JR6 社による北陸デスティネーションキャンペーン広告掲載 開催時期：H27 年 10 月 1 日～H27 年 12 月 31 日 事業内容：タブロイド誌への観光情報掲載 ラジオ CM 放送	1,000	観光交流課
消防施設整備事業費	消防署庁舎統合の為に新庁舎整備に係る用地及び建物補償 事業期間：H27 年度～H28 年度(H29 年度開所) 統合対象：和倉分署、田鶴浜分遣所、徳田分遣所 用地面積：3,372.74 ㎡(1,020.25 坪) 建物面積：1,185.21 ㎡(358.53 坪) 鉄骨平屋建	123,000	消防本部庶務課
公民館管理運営費	し尿処理浄化槽の破損に伴う調査整備(西湊公民館) 事業内容：調査委託料及び工事請負費	7,500	生涯学習スポーツ課

(3)特別会計の補正予算額 2,862 万 7 千円の増額

①各会計補正予算の概要

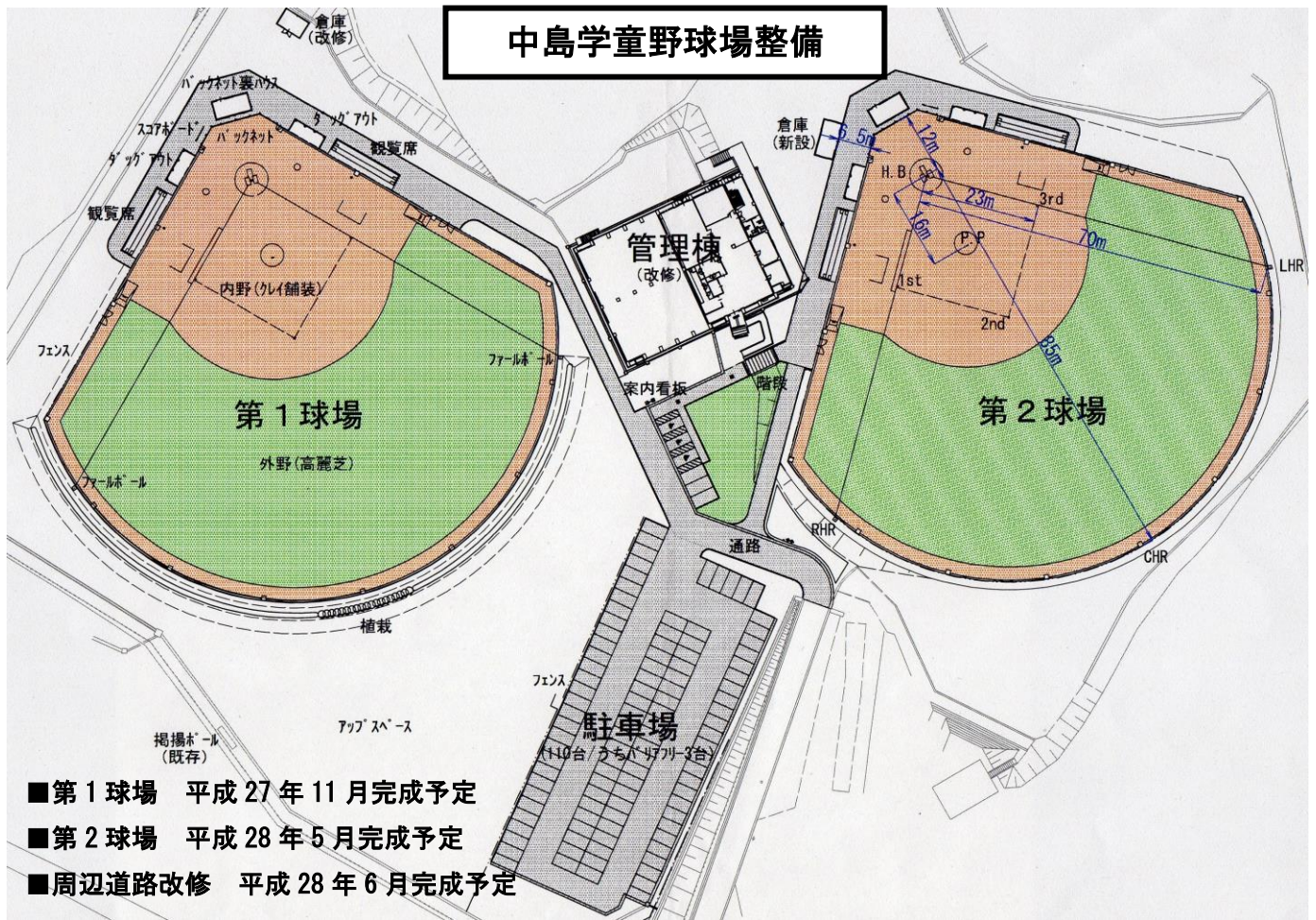
	補正予算額	主な内容
介護保険特別会計	136 万 4 千円	施設整備等補助金の単価改正による増額
国民健康保険特別会計	2,731 万 1 千円	前年度の支払基金交付金の清算に伴う返還金
地方卸売市場特別会計	△4 万 8 千円	指定管理への移行に伴う組み替え
計	2,862 万 7 千円	

②特別会計 9 月補正予算の推移

年 度	9 月補正予算額	9 月補正後予算額	特別会計の数
平成 27 年度	2,862 万 7 千円	199 億 1,262 万 9 千円	8 会計
平成 26 年度	2,195 万 5 千円	190 億 740 万 4 千円	8 会計
平成 25 年度	1,780 万 8 千円	189 億 7,946 万 4 千円	8 会計



中島学童野球場整備



1. グラウンド概要					
項目	規格		数量	備考	
内野	クレー舗装		約 2,510 m ²		
外野	高麗芝		約 4,090 m ²		
バックネット	高さ 8m×長さ 18m		1基		
カウントボード	BS0 表示機		1基	バックネットに取り付け	
ソーラー時計			1基	バックネットに取り付け	
ファールポール			1対		
スコアボード	高さ 2m×幅 3.2m		1基	マグネットシート	
観覧席	幅 14m×奥行 1 m×3 段(50 席)		2 箇所	現場打ちコンクリート製	
フェンス	高さ 1.8m		262m	球場と外周通路の境界部	
植栽	高木		150m	第1球場のみ	
2. 駐車場概要					
項目	種類		台数	備考	
駐車場	アスファルト舗装(ライン有)		110台	内、バリアフリー3台	
3. 建物概要					
項目	種別	面積	構造	棟数	備考
管理棟	改修工事	440.64 m ² (回収部分)	RC 構造	1 棟	多目的室・事務所など
ダッグアウト上屋	新築工事	13.20 m ²	S 造	2 棟	片持梁形式・ベンチなど
バックネット裏事務所	新築工事	27.32 m ²	S 造	2 棟	空調機あり

【議会質問】

■消防力の充実整備



質問 和倉、田鶴浜、徳田の1分署2分遣所施設統合により、どのような効果が期待できるのか示していただきたい。

市長答弁 統合によって新しく設置される(仮)七尾西消防署は、救急隊を新設する事により中島、能登島方面へのバックアップ機能が充実され、七尾消防署の救急隊と相互に補完機能を果たす事が出来る事になります。この消防署は救急件数全体の20%を受け持つ事が予想され、結果として七尾鹿島全体で現場への到着時間が図られます。また、消防隊についても、救急隊の消防車への乗り換えにより、消防隊2隊が同時に出動する事が可能になり、道路網の整備と相まって消防・救急共に七尾鹿島全体で大きな効果があると考えています。

■地域包括ケアシステムの実現



質問 ①訪問看護ステーションの取り組み状況。②在宅医療が必要な患者の見極め方など退院支援について。③認知症でないのに認知症と診断された事例が全国であるが当地域での対応と取り組み。④終末期医療の相談員支援チーム体制整備と取り組みについて。

病院事業管理者 ①本年4月1日公立能登総合病院訪問看護ステーションを新たに設置し運営を行っています。主な患者は、精神疾患や人工呼吸器などを自宅につけている医療依存度の高い疾患の患者が中心です。7月の利用者数は97名、延べ訪問回数は248回となり徐々に増えてきています。また、県の支援事業により、訪問看護研究会を当院が主催して立ち上げ、能登地域の訪問看護ステーションと協力して研鑽に努めています。今後は、利用者を増やし経営的にも安定する事に努め、地域住民が安心して地元で生活できる様に支援していきます。

②患者が退院後も安全な療養生活ができる様に、入院早期から主治医や病棟看護師が支援の必要性を見極め、ソーシャルワーカーと協力して退院支援に取り組んでいます。特に、医療依存度が高い患者には、退院調整看護師が介入し、訪問看護ステーションや地域の開業医にも在宅医療の協力をお願いしています。また、患者や家族が退院への不安を軽減できる様にチームで対応し、ケアマネージャー、地域包括支援センター、行政の担当者も加えた「ケア会議」で個別に対応を検討しています。今後はこの様な取り組みをさらに強化し、在宅の退院を支援していきます。



公立能登総合病院

③当院では、精神科、脳神経外科、神経内科の専門医が協力して認知症の診断にあたっています。うつ病などの精神疾患との判別についても院内で相談や診断ができる環境が整っており、各種の知能テストや画像検査なども組み合わせ、出来るだけ的確に診断する様に努めています。また、開業医から要請があり、物忘れ外来を開設し、地域の患者の早期発見に取り組んでいます。さらに、認知症の警護活動として、認知症診療ネットワーク連絡協議会を立ち上げ、地域住民にも周知しています。

④厚労省は、終末期医療体制を支援するため、平成28年度から全国に相談員を配置する事業を予定しています。当院では、終末期のがん患者には緩和ケアチームが、高齢の患者には老人専門看護師が中心となり、相談に応じ支援しています。また、終末期における患者やその家族が望まない医療に関しては、複数の医師を交えた多職種でのチームカンファレンスなどで対応策を個別で検討しています。今後も、終末期医療のマニュアルなどを作成し、患者やその家族の痛みや苦しみを少しでも和らげられるように努力していきます。

※チームカンファレンス…医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士、管理栄養士、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職が、分野の枠組みなどを乗り越え、チームで一人の患者さんに対して最適な支援方法を話し合い、検討するというものです。

